

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 不破高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月6日(火) 15:00～16:30
- 3 開催場所 不破高等学校ガイダンス室
- 4 参加者

	会 長	竹内 治彦	岐阜協立大学教授
	副会長	和田 満	垂井町教育委員会教育長
	委 員	渡邊 勝敏	関ヶ原町教育委員会教育長
		長谷川 妙子	関ヶ原町教育委員
		林田 力	不破中学校校長
		岡野 道代	地域住民(宮代こども園園長)
		宗宮 康浩	特別養護老人ホームいぶき苑施設長
		廣瀬 みどり	地域住民(垂井町食生活改善協議会)
		多和田 恵子	垂井町バドミントンスポーツ少年団
		山崎 正剛	本校PTA会長(欠席)
	オブザーバー	若山 隆史	垂井町議会議長(欠席)
		太田 佳祐	垂井まちらボ
		鉄井 宣人	NPO法人 泉京・垂井(欠席)
	学 校 側	早野 宏樹	校長
		北島 康隆	教頭
		北村 直也	事務長
		臼井 澄人	教務部長
		鈴木 孝慈	生徒支援部長
		伊藤 健一	進路支援部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和5年度教育指導の重点及び学校運営計画 成果と課題

(2) 生徒からの発表及び質疑応答

(3) 意見交流

- 意見 1 : スタディサプリや到達度テスト等について、学習指導において色々な学びの成果が上がってきている。また、学び直しを実践し、基本的な学力の定着についても成果が出ている。生徒の代表者の話を含めて、学習が成り立ってきている様子がよく分かった。演劇ワークショップへの取組では、主体性を引き出すことが、学びの出発点であり、自己肯定感の育成が、教育の出発点であると感じた。
- 意見 2 : 生徒の言葉から、教職員が生徒の実態に合わせて丁寧な指導をしていることがよく伝わってきた。教職員の方から生徒たちに積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が、生徒の範になっているのだろうと思う。本校の生徒や本校の良さをもっと町民に知らせたい。
- 意見 3 : 学校が開かれている、学校を開こうとしているという印象を強くもっている。生徒たちが認められており、自己肯定感を高める取組が継続され、充実していると感じる。また特別に支援を要する生徒への指導・支援をどのように進めるのかについて、学校の課題として取組んでいることは良い。
- 意見 4 : 学習だけでなく、部活動や様々な活動でも、生徒の育ちを支援しようと真剣な取組が展開され、胸を張って生きていく力になっていると思う。郡内の学校や町に、本校の取組や輝きを伝えられるように、何か手を打てると良い。
- 意見 5 : 生徒を主役とし、教職員が丁寧に接している姿を見て、個を大切にしながら日々の教育活動を実践していることがよく分かった。また、本協議会において、良いことばかりではなく、悪いことも含めて、事実をありのままに語った学校の姿勢が良いと感じた。
- 意見 6 : 生徒の皆さんから発せられる言葉にはとても説得力があり、聞いていてとても気持ち良かった。「学校が楽しい」「悔いの残らないよう全力で取組む」「合う、合わないではなく、とにかく挑戦する」という言葉が印象に残った。教職員が生徒の背中を押すタイミングが重要だと感じた。
- 意見 7 : ふるさと教育をこれからもより一層進め、地元の企業や事業所との交流の機会を増やし、多くの生徒が地元に残ることを期待している。
- 意見 8 : 学び直しをはじめ、学習指導も進路指導も様々な方法を考えて生徒たちが自立できるように取組んでいると感じた。特に、生徒と地元企業と関わる機会が多くあることはとても良いことだと感じた。
- 意見 9 : 本校に入学して楽しむことができることや、楽しみながらやる気が出てきたという向上心に満ち溢れていることに、教育方針の素晴らしさを感じた。
- 意見 10 : 生徒から「演劇ワークショップが良かった」という声が複数あり、時代の変化に即した教育を実践していると感じた。また高校で企業研究を行うことは、進路選択において大変有意義であると思う。今後もこのような取組みを継続してほしい。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、代表生徒からの発表や、本校の一年間の成果と課題について取組内容を報告し、委員の皆様から意見を得た。